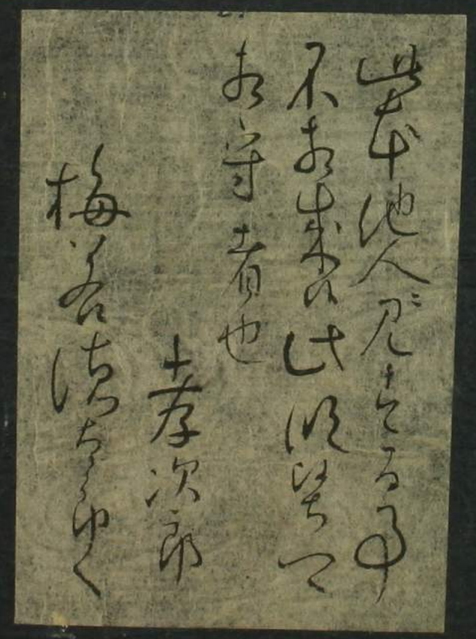
住吉詣
谷行
羊蒙
禅師貫京
僧



特別
チ12
3643
12(4)

門 チ12
號 3499
卷 4

故梅君誠太郎氏
昭和四年七月廿七日
梅君重戸氏
寄贈

早稲田大学図書

須佐路

ワキ出シ

セツシウスミヨシ摂州須佐乃神主菊園先生
ゾノ
こゝまでゝ掛も班班都うゝて
コノゴマミヤコ
ほまれあるびまき光源氏ゆる宿
ヒカルゲンジ
クヤシ
死の子細あり
ツイ
ツヾ
當社御系統
タウシヤゴサンケイ
出られ給ふ社人
イヅ
シヤニン
先を石出し社間
ドモ
メシイダシ
シヤナイ
を清め其心治をなるべきこゝ
キヨ
ソノコロヲ

付けやとあり　　セイ元年　小車　元年
もつく都路の　　直よ　おちもる時
代々　惟光　抑是いかはまもふ
廣光　源氏　おとり
まくも　君頼　かり　結の
抑も　雨　思ひ
袖衣　白鳥　鳥羽の

憑　秋　れいち　都の月
光　面　清　や　関　の宿
もつつ　ぬ　ぬ　廣れ
くたがいかの　源原　
わせば　書　ぶ　基　
ほのみ　む　村　
ふ　狩　春　花

住吉法

らんぼうの渡守や大江の岸
よりうの浦の音を聞て須磨の浦
ゆなるも[illegible]をあまぐ[illegible]
にちて海有紙きの沖の鷺へもいさ
きよる浦まちの波の端離れぬ
きぬ日の幸
神は聖ひいちをあべて

源氏上

[illegible]

同塵を法縁乃御[illegible]
ハ利物をんとそ[illegible]
を懈怠ち心を[illegible]
[illegible]

相成道

[illegible]

惟光

ちあべ[illegible]
いで[illegible]の[illegible]
帯をちぎ[illegible]

ノット

[illegible]

住吉海

讃上人和尚歌白神龍とすゝめれ
神樂八人へ、ゝ八しなかの皇人、ゝ神樂ゝの
こ紙の餘り音でいらゝの歌れ巻
ゝ、ゝ、ゝ、

住吉詣

郭詠

子方

樹の陰や一しの乃水

上地

みなもの色迄生の緑

上子方

かぐやまの

新古へてもぐ〳〵ぬる

青

千代万代乃まつの波

戸

ゐさの姫松いく世色めるん

ゐさの波〳〵緑色まさる

ゐさの

ゐさの

ゐさの

[illegible]

つし女上　松原の深緑

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]ばの紙波乃
[illegible]なる波のへに
[illegible]呈地
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]度霊あまそ惟
光も 甲 惟光上 [illegible]
[illegible]
[illegible]れの華おもひかる
[illegible]
[illegible]
[illegible]

乃車かゝれてよもぎ下るや宿毎
[illegible]も[illegible]ぐくとあつく酒も
[illegible]ひのゞもとゝ思ふ船

住吉詣

谷行

隅田川は都へう熊野おぎけ武の坊
よ師乃河周梨と山伏ゐて
梅を菜ゐ[illegible]と二人持ち作が米
[illegible]松若と申作。皮者乃父空
[illegible]ぶりふそひて
[illegible]ぬ[illegible]ほ[illegible]母の
[illegible]。[illegible]い[illegible]
[illegible]置て[illegible]。[illegible]菜い色き向ふ

炭入を仕て、眼を乃たうに、
今出家仕ぬ。業門ト作
高野
御入
ゐく渡りんぞ。御師乃方出
にて作よ。松若殿仕ごく
久く寺へわらぬ。
さぶん母の風に迷て
言語道
断ぱかりく石橋乃事ども
ど作。ちく集しまりたる由ん久
最上ぬ。御師乃方出
てな 出羽 地方へと上ん
最上ぬ 洛
松若入久
久しくまりぶん。
又松若
雄しこまりぶ。ひや
やつこまひい風のこちのこと承ひ
ひいろ橋よ出ぶ
松若殿行まりぶ。
松若殿行まりぶ。梅仁と四殿

風のあらハさやらしくぶん

まことにむつかしく御所

思ひ寄しと人 枕もさ御所易かゝ

本とまつ事人

迎き間つ拳入て結ぶ御眺

ちつゝあにしまつて作 御拳と

やしいつ大事の行 御行ぶこゝて承

てゝさゝ松若小出作ろ

いやく弱り捨入行ゝく結

加き人の作 者 結ぶべき道ゝていい

ゝ作 枕いさ御四易ゝかぐた

敷やゝゝ御出 ゝゝたゝ作

らゝばやゝてしまゝ拳ゝ

に松ゝ厳ぶ御ゝ

ゝゝ御ゝゝ

[illegible]
[illegible]
[illegible]

間毋郎の風乃ぬけらといひ雑行捨身の
道とかるべきかうれひ
おもひもうけぬ毋郎
力なく祈めよ峯入きなり
いくべき
作法行と
先ハ私ものごとく峯入の
社ものまたぬ
先ずすく祈ひらかん
時ハ
まづ
毋心を
隔
作出
きめ
道より
現世を
ひとり牛也と

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

風乃こゝろ世界を行と器ぞ。
（ほんのとうくひ）
はりぬけ是は高く高く猿の作り事
（うけ）
つくれ書しかるべく汁心易く思
（ありがたい）
ふれ　梅の花心易く作能痛
（陸）
きとゝ思ふまゝつたかるべく作
武者殿嬢乃事部乃こゝ行れ
作が。外の外こゝ見へ給ふてゐる

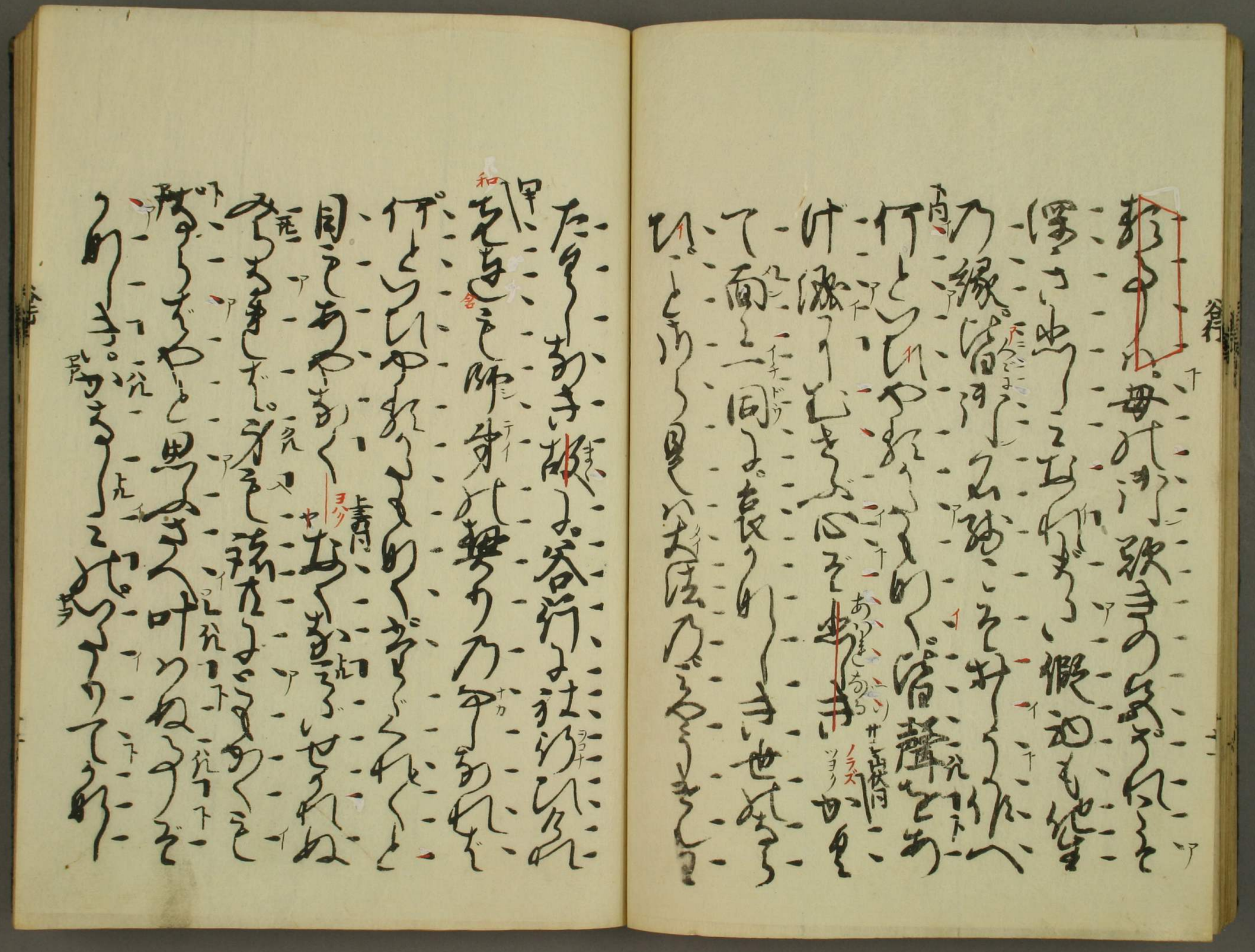
（メイホウ）大法乃ごとく谷行よだ
（メニカウ）
ゝ海しゐ文ぞ。
（武）
思ふ事本
宋素ふ事ふ事ふ行ふ
ばつ心ちにくく作。乃高猿
乃つくまにくく作
（巳）
やうれ書ふ事乃河偽巳行
ちはしら外の河頻ふて考作

ぼうらいぜんしゅうの大法をうけ
給行せしめられ
ぶにく見ゆるたるべき由
をもつてうけ給はる
ものなり私の殿乃御ものを
申てくへば旅の御事乃ゆ
ゑ以外よろしき旨

（ばかりなき）ものと（ぶ）（ぶ）（ぶ）

[illegible] 大法乃人に[illegible]
[illegible]ばかりに去ぬるに彼
者の心中[illegible]ゆうよ不便なれへば大法
つかうを会[illegible]ゆうとなきずに
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

ふりかへ[illegible]
行[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]



きはめたる心なるべく配
分するべきの強きをもちて
一切有為の世の事は泡幻
如露亦如電なりされば長くとゝめて
こゝろとしがたしやさきをあ
ぢかの者の道よりも出なむ火宅の
門をこそ出でぬれ二界の親
の恩愛も強きひとかたにあ
はれくて別れぬるとも皆面
面よ思ひ出でぬ邪見の剣をとり
て心をあらく強くもとゝのき合
いはせしまじうあるべきなり
ぬりつらぬもとうでかきあつめ
つゝあるべきなり皆面よ

元禄十三　三月十　先隣　屋敷や　日のたけ　十三

たうく

ゑもん方へ　軍門　先達　ゑもん

作兵衛ハ愚僧ハ弱ク　先達

遠乃方ニ立ハ　今

ハ弱ク行と　宇

行べき　ハ　ニ　ハ　ハ　ハ　ハ

家ニてゑ門　弱ク　ハ　都ハ　ハ

彼者乃母ハ行と　ハ　ハ　ハ　ハ

作り給へば年月(トシツキ)の行德(ギヤウトク)も
やう〻時うつり社(やしろ)へば開山役優婆(カイサンヱンノウバ)
塞(ソノ)再(ナラビ)小大聖不動明王をかくして
を松若殿乃御命をこの所(フタヽビ)とこそいい
ぜやうずおろかなる事
[illegible]
[illegible]

いにしへ年月(トシツキ)乃行德と聞しに時よ
てうつり開山役優婆塞(カイサンヱンノウバソク)となる
大聖不動明王をかくしたる松若
殿の御命をこの所(ふたヽび)とせいさせ給
[illegible]
[illegible]
[illegible]

行会ずんば
[illegible]
過ぎぬれば色彩有様を
見ずもあり心の邪[illegible]
年月たつるに大聖不動明
王の威力[illegible]
善神[illegible]
[illegible]
悲愍納受[illegible]

使者

乃鬼神[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

去てゆくやうなる音して
段々高聞ゆるなり
あぎ行者の
おまへよしまちもれば
者い
手に
善哉善哉春の
あるべうを感じてそこ
もつ
あつを

給へ
つ
ひらや
つきの
泳ハ
ごく
と

半月

幸蔵

月くい都北山雲野雲林院住僧
みてん梅の花一夏の間花をえらぶや
安居をとらぬ法師の法花
作の花の侍養を老行ばかりの数習
立花作浪入るの花非情立女たるうと
ぶ山花廣枝よ開きうりあるを志ると

ロツケテ シテノ出
アイシ豆腐ルト ジク

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

上平

雨ぎ[illegible]ぐ[illegible]ぼ[illegible]と[illegible]り[illegible]で

油と[illegible]ま[illegible]廬山の雪のぼ[illegible]

上声

[illegible]

去聲

[illegible]

[illegible]物を[illegible]

去作直[illegible]夢の[illegible]

喜提[illegible]吊り[illegible]

上地

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

中将と申すは八幡の宮松だいとう
の御あるじ殿と聞きけばみうの
邸嶽精進の人にて南無阿弥陀
仏弥勒ムとぞ唱へまゐらせ尊き
仏養ふ時の思ひ出でぬ
宮ら扶ひ給ひ
に宿を見てあ

まりさいなむ
花みきとの
扇の
かりしまも
まちとも
ぞ花を
ぬきさよあ
ほどのう

第二　禅師曽我

敬ふ　花の御所

だうり　見る　曽我兄弟

の人々　お仕へ申　兄弟

見物の人々　八月の夜

かぐの屋敷　見物人

とも　出産　討ち

てん。紫花菖蒲や、人も供や、人も見
の中と持て出へて、おとのうつのふて
行ぬ。今古へ人、使の注
て居りしハウ、花を見すり
今ぞハ無沒よ沒ら見えん
たりき富士の根れ煙ぞ立づ
まやよ居りうの称ら沒れ

国三帝河

意ハ沒ぞハ早うぐれ里よ多て作
ぐく業用とやはらずふてぐいふ
業用や。国三帝ぐ業りたる事ぐ
ぬや人。国三帝と云ふ。洗方へ来ら人
材ハ今ハ行れ為よ来ら沒ぞ
さんば面目も無き使よ業りてん。西
国もうき使とハ。

ひとつ世八日九夜ばかりの産うこへ
悪しべ毒と歌と中村有長卿
ものとけまを於ひて又ひ和尚もと
持ち奉りてはべ花こと給へ祝儀
と対面申べ長良ばうそで
歌とうたへ又ひ為母と思ふ事
のうち九 昔 恨ケテ
情やあり

うたひうれ殘うそやうやうはまを八社のう
へ一度白髮のうばうやうやはよ
美服島おくしく八人まを八色しのうば
九人ひうも真信うば髮九髮福の
字ばうやうそうばと守ひ
和九そやと胸よりて光ものく聲
ものまを法花うば

実ニ此歌

和俗制衣作の字

辻 鬱の字 凍 嚴の字 扱 扱の字 働 動の字 杣 杣名物を出江談抄に山間の樵斧を作るなと

柿 日記に貴木と云多多字、本草に柿木と云 弱 弱の字 鯛 海鯛 鯖 鯖 鰹 古魚 楫 形

拖 拖 鯛 鯛字 鯖 鯖字 鯖 鯖字 鯖 鯖

たゞ事のかぎりなん給はれ人をきこえ
ぬ　給へと　ぞ思へ　ぬ
さらぬ　ぐ　へも　ぬ　と　ぬ　く　ぬ
禅師の事　の　の　の　人
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
たくさも　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ

ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ

入道新の敵と討長男も則房よ
対面くいなかりしかば久上兵衛
こゝに新は幼少の時より。
つゝる者は出家へ
捕て家もとに住居
俊よりあなたに素性
やくそう同道師と捕人為
久上兵衛尉は。是いとやくなる。まづ〳〵事問をこそ〳〵ざるべしと
伊藤の九郎助宗うの家へ参りたり
ハ何の為ぞ
弾正殿より。かゝめ遣て来たるとの
仰なり。
佑宗ハ某が従弟の
たゞ先なり。
夜中ぶいかれ

相ひくみうやとたいしたいけとうふー
廿八日れ夜兄弟れ者ども家れ屋
うよ要ハ四ぞ敵を討其外も
則府よ対れくハ病りや母ハ
うを於ハ能ふつまうも出家れ
ずかくうハ兄弟の敵の事ハれたべ
つう行迄と母ハひつう母ハ此迄ハ

討れ於ハたうる母ハ四宗ハ我ゝ討
ものれ者よ参ハと覚うたうとと
望と無くみうやとはぞうふ四宗に
ゆ為ハ事れ仏四れ方ちう文のん
ぞ相見の行方と聞く於ちうハ
早
早相京ってたよ
ちまハ社討ニ
みうやぞ無ハ文と見うやとは

ぞ其外も其作計り拾ひてなげ又ハ
ちるの出家ぞ悲しきわたし強者面し
ばうもし真かと今ハて花盛り
踏ともこひ踏ものを面白ものを
ぞ人感めくたりひ拾へぞ有強
べきの時洗ひ文と拾ひたぶのの
志の有強ハいふ梅も如宗ハ其

三翼を比文ふくハ面しまうすも
惜ちもまたいたりしい
寿常ハ打死仕りたと揚て茶
らを色 杉色ハの津の三郎ゞ来
のよりと氏師 上同 墨染の下に琴屋の端
悪ニ俗代の剣ニ戸入れ長刀指挿
しまち詠べき拾しをぞ知ちをも

[illegible]

[illegible]

[illegible]

今は是迄こゝに捕
長刀投捨者
くしゝ
薩摩の
[illegible]
おつ取られらいたん
[illegible]
[illegible]
鎗金へ[illegible]

くるま僧

段ノせうもつ車僧
[illegible]
[illegible]
[illegible]

西山ゑ[illegible]一人一コトト[illegible]
[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]
をゝて四方乃うゑ[illegible]を詠めゝ[illegible]
[illegible]
[illegible]ゑ[illegible]
[illegible]
[illegible]

青、光二ヤ

三界無安猶如火宅とぞ出ぬる

彼三界車傳の邪門をぐらぬ

道あり者とあり蒙得たり

青、

ぬしいくの心字あり雲水をぐぐる

代をもて冷まる岩を青ぐて行い

で山岸ぐうむ色ぐこあしく宮裏

さあらんぐ

中入来序れを出ん大べシ

やまぐ郎坊ぐ庵室ぐ御へあまやく

るま傳ぐ代ぐ山鳥雲に

雲ぐ宮山

ちぐ雷鳴り轟つむ人去

沈ぐ宮中ぐ山踏ぐ

牧車論いぐ車傳ぐ社祭者ぐこの

あぐぐ帰心乃心路あとあぐぐや

ぜんぜんの法敬ふかう修ふかく
仏僧。魔道ともに心をかけて車僧。
善悪二門ともに輪乃ごとく仏法
きびしく法あり煩悩あきびし菩提
あり。仏のきびしく宗旨もあり
車僧ならんで大部堂の行者も者
ならびに行者ならびに行徳をもかく

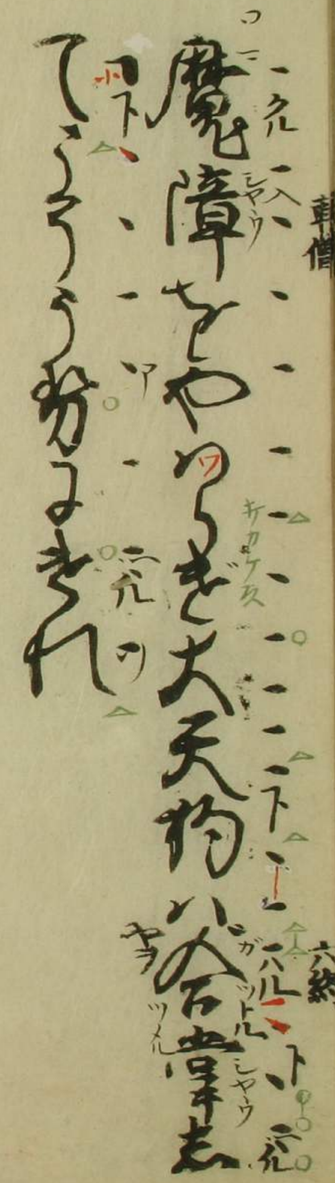
ト、、、

轍 車ー 軍ー 也 軫 車ー 也

うきしめや　あるかひなくなるべきと
ぞ　たとへり　車をとり上げて　あゞ車を
うたをうたひながらさゝ牛をうしいかせつゝ
きしく車はこゝろ　梅うしの
うしもゝうらばら　愚やはこ
牛は道ぞえたるうしをいかせつゝ
みえたる牛とい梅つれども　牛は

うりもゆゝしく　うりあ値ぬるいは
ゝ　中くはうでくうりぐ
露地の白牛うりんきとおぼ
をうをく　虚空　青　愚やは
おこうらぬ　ゆるぬうて
今とい見うり　車とみえつる　牛も
ちくへをひの　ちくとやう愚

てかくて車こぎ入
乃山のうち聖の面まぎれ法乃
のべ過りしてぶ
うわ有りうち宮
や雪のうち跡つこ車乃ほ
ちハあり引乃大雪かいらゆく
京雪山乃面まぎれと法のうち後路

たいりの
まよのてぐら後雨ちう
ゆくぶ
法のかこ
乃山のてぐ
きぐもあ
車僧の邪ち

小車
法乃ち
ぶ
ぶ
ぶ